

山を育てる 仲間たち



#007

西川マザーウッズ

Nishikawa Mother Woods

日高振興局管内の新ひだか町静内西川で、人工林の伐採から植樹、木工作、食品加工販売まで幅広く活動する女性林業グループ。長年の活動が評価され、平成21年に北海道社会貢献賞(森を守り緑に親しむ功労者)を受賞。



地域のおかあさんの視点で活動し続け20年。 西川の森と、梅の里の特産品を育てています。

ご主人に触発されて、林業グループを結成

西川マザーウッズは、今年結成20周年を迎える道内女性林業グループのパイオニアです。町有林・自治会有林の森林整備に始まり、現在は地元のみどりの少年団の育成活動、地域振興への取り組み、研修会の開催や参加による会員の技術・知識のレベルアップを加えた4本柱で活動しています。

結成のきっかけは、代表を務める野表真苗さんのご主人・忍さん所属の西川林業クラブの存在でした。会長であるご主人と仲間たちがわいわいと賑やかに活動する様子をうらやましく感じていた真苗さんは、ご主人から女性グループの結成を勧められました。「地域の女性が集い、女性の立場から林業学習を深めて、心豊かな生活環境づくりができればいいなと思いました」と野表代表。そうして西川林業クラブ結成40周年の平成9年に、



西川マザーウッズが誕生しました。

現在の会員は8名で平均年齢54歳。母であり、働く女性でもある会員は、家業の繁忙期や家庭の都合などの制約を受けながらも、おかあさんの視点でマイペースな活動を楽しんでいます。

植栽から商品化まで手がけ、梅の里づくり

そんなおかあさんパワーを最大限発揮しているのが、地元・西川自治会の「梅の里づくり構想」です。スキルアップしてきた知識・技術が生きる梅の木の植栽や管理・育成はもちろん、エゾシカによる梅の木の食害予防対策の立案・実行や、収穫した梅の果の加工でも活躍。平成16年には会員が食品衛生責任者の資格を取得し、梅漬けやジャム、ゼリーといった加工食品の製造・販売を本格的にスタートさせました。



毎年参加している地元の農業祭では、梅製品をリースなどと並べて販売しています。評判は上々で、梅の里・西川のアピールにも貢献。育てた梅、つくった食品が地域の特産品になるというおかあさんたちの夢がかなう日も近そうです。